

多くの本に触れ、楽しんで本を読む子どもを育てる

～広げよう本の楽しさ 深めよう本の世界～

新潟市立西特別支援学校

1 西特別支援学校の児童生徒の様子

(1) 読書センターとして

- ・静かにお話を聞いたり、表情やしぐさで表現したりして読み聞かせを楽しむことができる。
- ・授業を通してお話の世界を楽しんだり、見立て遊びを楽しんだりできる。
- ・好きな本を選び、じっくりと読書を楽しむことができる児童生徒がいる。
- ・好きな本やジャンルが固定しがちで、新しい本に興味を示さない児童生徒が多い。
- ・移動に時間がかかるため日常的に図書館を利用することが困難な児童生徒がおり、多くの本に親しむ機会が少ない。

(2) 学習センターとして

- ・自分の興味があることを、図鑑で調べることができる。
- ・調べる活動を取り入れる学習の機会が少ない。

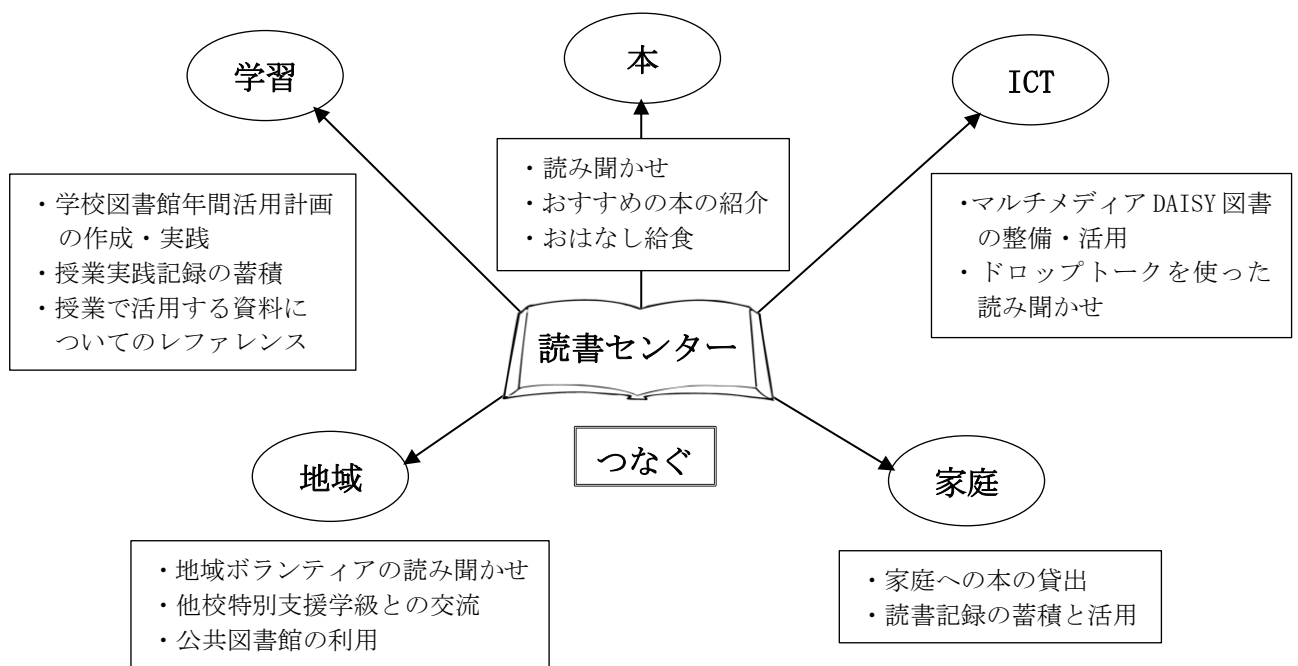
(3) 情報センターとして

- ・中学部では、生徒の実態に合わせた資料の中から、必要な情報を探することができる。
- ・情報を見つけ出す力に個人差が大きい。

以上のことから、本を使った学習の基礎となる読書に児童生徒がさらに深く親しむことができるよう、読書センターとしての機能の充実を課題とした。

2 今年度の取組

(1) 読書センターとしての機能



(2) 取組の重点

今年度は、読書センターとしての様々な機能のうち、「児童生徒と本をつなぐ」「児童生徒と学習をつなぐ」機能の充実を目指し、下記の2点を重点として取り組んだ。

- 1 広げよう本の楽しさ・・・多くの本に触れる
- 2 深めよう本の世界・・・様々な視点から本を楽しむ

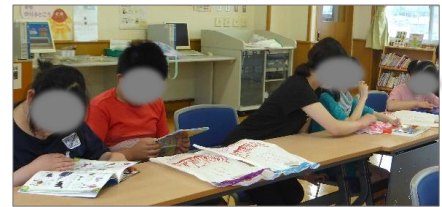
3 具体的な取組

(1) 広げよう本の楽しさ

① 担任や司書の読み聞かせ

学級担任が学習活動の中で機会をとらえ読み聞かせを行い、本を身近に感じることができるようにしている。児童生徒の興味関心について一番理解している担任の読み聞かせは、児童生徒にとって大好きな活動であり、本の楽しさを十分に感じて、集中して聴く姿が見られた。

また、司書による読み聞かせも定期的に行った。多くの学年に「図書の日」の過ごし方として、図書館で「司書の読み聞かせを聞く、本を借りる、読書をする」活動が定着している。通常の本の形態では内容を理解することが難しい児童生徒もいるため、動きや音を取り入れた動く絵本を作成し、全員で本を楽しめるようにした。



② ボランティアによる読み聞かせ

地域教育コーディネーターと連携し、小学部児童を対象に学級ごとに毎週1回、ボランティアによる読み聞かせを行った。経験豊富なボランティアの読み聞かせは、様々なジャンルから選書されており、児童が普段手に取らない本を知るよい機会となった。司書とボランティアとの情報交換を行い、学校にない本は購入し、児童がいつでも楽しめようにしている。



③ 西川図書館司書によるおはなし会

読書週間に西川図書館の司書によるおはなし会を行った。手遊び・パネルシアター・大型絵本など様々な形態でおはなしの世界を楽しむことができた。様々な方法での読み聞かせは、児童生徒にとって新鮮で、身を乗りだして聴く様子が見られた。



④ 級外職員による読み聞かせ

読書週間に、校長・教頭による読み聞かせを行った。多くの教師からの読み聞かせに触れることができ、児童生徒は集中して聴いていた。



⑤ 児童生徒のおすすめの本の紹介

児童生徒のおすすめの本を紹介したカードを玄関ホールに掲示した。自分の好きな本を友達に知らせようとすることは、本への関心が増すだけでなく、発信する体験を増やす上でも有効だった。玄関で友達の書いた紹介カードを見ている児童生徒が多く、図書館で展示されたおすすめの本もよく借りられていた。



⑥ 教師のおすすめの本の紹介

教師がおすすめの本を紹介する動画を、玄関に設置した大型テレビで下校時に放映した。バスを待つ時間に多くの児童生徒が視聴し、様々な本を知るよい機会になった。自分の担任や他学年の教師がテレビに映るので、興味をもって見ている様子だった。図書コーナーに、おすすめの本を手にする教師の写真と合わせておすすめの本を展示したことで本を手にする児童生徒も多かった。



⑦ 図書コーナーの新設

児童生徒全員が毎日通る1階玄関ホール脇に図書コーナーを新設し、いつでも本を手にとれる環境を整えた。教室への貸出も可能とし、本に触れる機会を増やした。



(2) 深めよう本の世界

① 本を使った授業実践

ア 「学校図書館年間活用計画」を作成し、本や図書館を利用する授業を年間の学習活動の中に位置づけた。

| 学校図書館年間活用計画 小学部1学年 (赤:単元・題材名 青:活動内容) 新潟市立西特別支援学校 | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-------------------|-----------------|-------------------|---|--|-----------------|---------------------|------------------|-------------------|----------------------|-----------------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8・9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
| 日常生活 | 荷物の片付け・身だしなみを整える・寒暖に応じた衣服の調節・靴の着脱・返事・挨拶・言葉遣い・食事マナー・食器の片付け・おしぼり取り・手洗い・うがい・歯磨き・排せつ・清掃 給食準備中の読み聞かせ | | | | | | | | | | | |
| 遊び／生活単元 | 【遊び】 学校探検をしよう | 【遊び】 乗り物遊びをしよう | 【主単】 運動会をしよう | 【遊び】 お祭り遊びをしよう | 【遊び】 夏身遊びをしよう 【読み聞かせ】 『へんしんトンネル』等のへんしんする本はなし | 【主単】 お出かけしよう 【図書館の利用指導(利用の仕方・マナー)・読み聞かせ】 | 【遊び】 秋祭りをしよう | 【遊び】 きらきらランドで遊ぼう | 【遊び】 大型遊具で遊ぼう | 【遊び】 むかし遊びをしよう | 【遊び】 ダンボールランドで遊ぼう | 【主単】 もうすぐ2年生 |
| 国語／算数 | 【国語】 本を読もう 【読み聞かせ】 本を使った様々な活動を通して、聞く力、表現する力を育てる。 図書館に行こう 【利用指導(図書館でできること・利用の仕方)】 | | | | | | | | | | | |

イ 本の内容をまねっこ遊び、ごっこ遊びにして体全体で楽しむ、動物の泣き声を選ぶなどして児童生徒が読み聞かせに参加する、マルチメディア DAISY 図書を活用するなど、本を使った授業を行った。その後は、授業で使用した本に興味を示す児童生徒が多く、図書館で借りて読んでいる姿も見られた。



(別紙「授業実践の記録」参照)

② おはなし給食

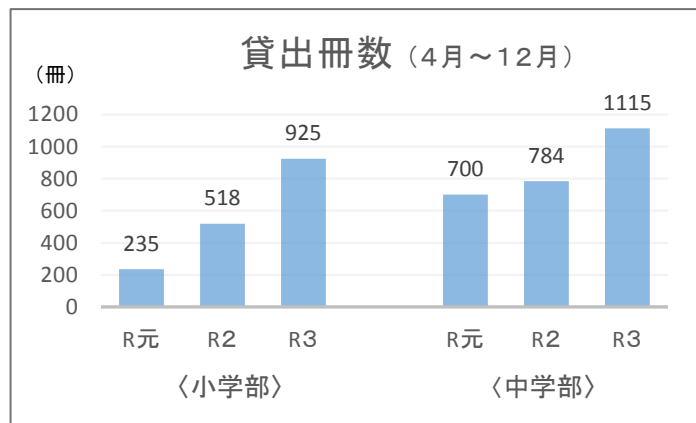
特別支援学校では「食べ物」の本に興味を示す児童生徒が多い。そこで、味覚からも本を楽しめるようにおはなし給食を実施した。事前に収録した読み聞かせを大型テレビで視聴した後、お話に登場した料理を給食で味わった。視覚や聴覚からだけでなく、味覚からも本の楽しさが感じられたようで、展示した本を自分から手に取り読む児童生徒が多く見られた。



3 成果と課題

(1) 成果

- 本への興味関心が高まった児童生徒が多く、貸出冊数が増えた。
- 教室や図書館で自分から本に手を伸ばし、本を読むことができる児童生徒が増えた。
- いつも同じ本を借りていた児童生徒が、初めて違う本を自ら選ぶ姿が見られ、興味の対象が広がった。
- 借りていった本を兄弟に読んであげるなど、家庭でも本に親しむ様子が見られた。



(2) 課題

- おすすめの本に興味を示し手に取っている児童生徒に、実態に合わせてその場で読み聞かせをするなど、より深く本の楽しさを伝える手立てを講ずる。
- 小学部低学年を中心に1階図書コーナーで本を読む姿が多く見られたが、そこで読み聞かせを行うなど有効な活用の方法を考えていく。
- 全ての学級で本を使った授業が行われているが、マルチメディア DAISY 図書を活用した事例は少なく、全教職員がマルチメディア DAISY 図書の特徴や使い方を理解する機会を設ける。
- 読書センターとしての機能をさらに充実させるために「家庭」「地域」「ICT」と児童生徒をつなぐ取組も行う。